

牧羊ひろば



鎌倉深沢教会 土屋開夫

「愛する兄弟たちよ。堅く立つて動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」（Ⅰコリント15・58）

鎌倉深沢教会の教会学校は、この「牧羊ひろば」に書かせていただくような精力的な活動や成果は、ある意味、何もありません。しかしながら、そんな中にも主の大きな憐れみ、励ましが与えられています。あります。そのままお証ししたいと思えます。よろしければ、しばらくお付き合ってください。

●かつての教会学校

鎌倉深沢教会は一九八五年から開拓伝道が始まり、一九九〇年から教団の教会（伝道所）としてスタートします。

した。私は八代目の牧師として遣わされ、3年目を迎えています。

かつては多くの子ども達が集い、また平日にも幼児教室や子ども教室の様なものを行い、保育経験のある専任スタッフもいたようで、水槽の熱帯魚と数を競うように子ども達が来ていたそうです。その子ども達もすっかり大きくなり、今もつながっている子女もいれば、すっかり離れている青年も多くいます。しかし、当時心に蒔かれた種はきつと心の奥に残っていると信じます。

●一人の女の子

さて、そんな時代もあったようですが、私が遣わされた時は、CS生徒は数名いましたが、あるご一家が来なくなり、残る生徒は男子1名となる筈でした。ところが、そこに神様は不思議なようにある日、一人の女の子を送ってくださいました。誰が連れて来た訳でもなく、神様に導かれるように自分の意志で来たのです。聞けばお祖母様が熱心なクリスチャンで遠くの集会に行っているという事でした。その影響もあったでしょう、自分は近くのこの教会に行こうと思ったようです。とても真面目

で純粹で、驚くほど信仰深い子でした。それ以来、今も毎週欠かさず来ています。

●こども教会新聞

思えば、その少し前から地域の子ども向けに「こども教会新聞」を作り、配り始めていました（配っているのは妻です）。8コマの聖書マンガやクイズを載せ、学校帰りの子ども達に配ると、勿論、受け取らない子や捨ててしまう子もいるのですが、毎回楽しみにしている子もあり、結構受け取ってくれます。でも前述した女の子はそれを見て来た訳ではありません。けれども、子ども達のために祈りつつ御言の種まきをしている、その事に主がお応えくださったのかも知れません。

●ゼロからの祈り、求め

そのように喜んでいたのも束の間、あっという間に次の年になりました。貴重な二人のCS生徒はどちらも6年生であったため、春から揃ってCSを卒業し、ユースクラス（中学生・青年）に行ってしまうました。その結果、四月からCS生徒ゼロ、教師だけで教会学校をする

時期が経きました。東京若枝教会の飯塚俊雄先生から「生徒がいない時でも、全力でCSの礼拝を守りなさい。そうすればやがて生徒が与えられる」とアドバイスされ、それをCS教師に伝え、CS教師だけのこども礼拝を続けました。

勿論、その間、何もしなかった訳ではありません。

子ども向けには「こども教会新聞」を続けて配り、それだけでなく親御さん向けに「こんな時代だからこそ、ぜひお子さん、お孫さんを教会学校に送ってください」とアピールしたチラシを相当数、新聞折り込みしました。ご自分が子どもの頃、かつて一度や二度、教会学校に行った経験がある方もおられるだろう・・・、そんな方がお子さんやお孫さんを送って下さるのではないかと期待したのです。ところがいつまで経っても、見事に全く反応がありませんでした。



洗礼式

夏には、子ども大会を企画しました。当然それ相当の準備をし、チラシも配りました。私はメッセージ担当です。得意の手品の準備もバッチリです。大勢は来なくても、少なくとも数人は来るだろうと期待していました。誰も来ない事はないだろう。ところが・・・、開始時間が過ぎてても全く誰も来ません。連休中という事も、逆にタイミグが悪かったのかも知れませんが、さすがに私はショックを受けました。CS教師たちもガッカリした事でしょう。

私は正直、主に対する怒りも感じてしまいましたが、また同時に今まで教会学校を全て妻とCS教師に任せつきりにしていた事も反省させられました。それまで毎月一回、CS教師方が近くの公園に行つて、紙芝居をしながら教会学校の案内をしていましたが、私はそのショックと反省から、「私も一緒に公園に出て行こう」と祈りのうちに決心しました。

●公園お話し会

そうして公園に行くと、やはりそこには数人の子ども達がちやんといるのです。「教会学校に子どもがいない、

来ない」と私たちは言います。確かに少子化ですが、世の中から子ども達がいなくなつた訳ではありません。教会の外にはいるのです。勿論、今の時代、昔のように公園でストリートに福音は伝えづらいかも知れませんが、私は手品や人形を使いながら、必ず福音の一端でも伝えるようにしています。

イエス様の名前さえ聞いた事がない子に「イエス様」のお名前を知らせるだけでも意味があるでしょう。子どもと接する事に飢えていた私は、久しぶりに子ども達に会えて、本当に嬉しかったです。今も道を歩いていると遠くから「あ、手品のおじさん」と声をかけてくれます。おじさんという意識はありませんが・・・。

●一人の貴重な魂

それでも相変わらずCS教師だけでこどもも礼拝を守る



洗礼式

事がまだまだ続きましたが、ある日曜、お母さんと一緒に一人の男の子が来ました。そのお母さんは若い時に荻窪栄光教会で洗礼を受けたのですが、最近は全くどここの教会にも行っておられませんでした。けれども、荻窪のある姉妹から「教会に行きなさい」と強く勧められ、それでしぶしぶ来られたのです。その男の子がまた前述の女の子に勝るとも劣らぬ熱心さで主を求め始め、五冊セットのマンガ聖書を十回以上も読み、私の質問にも殆ど答え、フランクリングラハム大会に出席した時に決心の座に出て、その後、受洗クラスを妻が導き、そして、今年のイースターに受洗しました。この事は私たちにとって大きな喜びであり、主からの励ましでした！

現在、貴重な一名のC S生徒ですが、時々お友達が一緒に来たり、その他の幼な子たちも不定期ですが



イースターたまご探し

時々きています。

●涙の種まき、喜びの収穫

現在、どこの教会学校も大なり小なり苦闘している事と思います。しかし、冒頭に掲げた名言葉の通りだと思っています。子どもの伝道でも、大人の伝道でも、その方法にある意味、王道というものはないと思います。よそで上手くいってる方法を取り入れれば、上手く行くのか？ そう短絡的ではないでしょう。

ハンナのように「子どもを与えて下さい」という涙や嘆きの祈り、飢え渴きの中から、主が心に示して下さいたり、与えて下さるアイデア、「こんな小さな働きに果たしてどれ程の意味があるだろう・・・」と思う事でも、何でもいいから何かをする時、ささげる時、しばらくの待ち望みの後、主は思いがけない事を必ずしてくださるのです！ 全ての教会学校の祝福を祈ります。

「涙をもつて種まく者は、喜びの声をもつて刈り取る。種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう。」（詩篇26・5～6）

（土屋開夫）